

科目名	薬物動態学特論	選択	1単位
-----	---------	----	-----

◎責任教員

担当教員	◎教授 出口 芳春 教授 黄倉 崇、准教授 久保 義行、助教 中谷 絵理子、助教 赤下 学、助教 黒澤 俊樹						
開講年度	2022年度	配当年次	1～4年	配当学期	前期	授業方法	講義

授業の概要	医薬品の適正使用にあたり、薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）の各過程を定量的かつ機構論的に理解し、医薬品開発および臨床における実践応用力養成を目的とする。
-------	---

授業の到達目標	1) 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）の制御因子について説明できる。 2) トランスポーターおよびレセプター分子の薬物輸送機能について説明できる。 3) 薬物動態と薬力学の関連性について概説できる。 4) 薬物動態の医薬品開発への応用について概説できる。 5) 薬物動態のテーラーメイド薬物治療への応用について概説できる。
---------	--

授業計画	回数	担当者	行動目標
	1	出口 芳春 教授	薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）の制御因子と変動要因（1）
	2	出口 芳春 教授	薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）の制御因子と変動要因（2）
	3	黄倉 崇 教授	薬物動態と薬力学の関連性（1）
	4	中谷 絵理子 助教	薬物動態と薬力学の関連性（2）
	5	赤下 学 助教	薬物動態と薬力学の関連性（3）
	6	久保 義行 准教授	薬物動態の医薬品開発への応用（1）
	7	久保 義行 准教授	薬物動態の医薬品開発への応用（2）
	8	黒澤 俊樹 助教	薬物動態の医薬品開発への応用（3）

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	1回目の講義で配布する資料を熟読の上、受講すること。 事前学修：前回の授業内容（資料等）を復習し、用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業中の疑問点をまとめ、資料等を利用し、次回の授業までに解決しておくこと。 当該期間に30時間程度の予復習が必要となる。
----------------------	--

教科書	なし
-----	----

参考書	なし
-----	----

成績評価の方法および基準	レポート100% 欠席は、理由により減点する場合がある。
--------------	---------------------------------

その他履修上の注意事項	レポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。
-------------	--